

dBTechnologies

VIO L212







3-Way アクティブ ラインアレイモジュール

取扱説明書










安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なおいや音がするとき 機器の内部に異物や水などが入ったとき この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災/感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。 万一、煙が出ていたり、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災/感電の原因となります。 定期的(年1回くらい)に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにし 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災/感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に交換をご依頼ください。</p>
	<p>専用の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p>
	<p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。 表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。 また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。 火災/感電の原因となります。</p>
	<p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(20cm以上)離して設置する隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
	<p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災/感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災/感電の原因となります。 内部の点検/修理は販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災/感電の原因となります。</p>

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 指示	<p>設置の際は、資格や経験を持った人(専門業者)に必ず依頼する 天井や壁掛け設置、床などに設置の際は、設置場所の強度を確保する 使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。 天井/壁/柱/床などに設置する場合は、設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。</p>
<p>注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。</p>	
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災/感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
 指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、専用の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災/感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災/感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 禁止	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 注意	<p>5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

目次

安全にお使いいただくために.....	2
はじめに.....	4
本製品の構成.....	4
本書の表記.....	4
商標および著作権に関して.....	4
別売りアクセサリ.....	5
結露について.....	5
製品のお手入れ.....	5
ユーザー登録について.....	5
設置上の注意.....	5
アフターサービス.....	5
本機の概要.....	6
本機の機構と音響上の特長.....	6
設置方法.....	7
ラインアレイ構成による本機の連結.....	7
吊り下げ設置(FLOWN INSTALLATION).....	8
床置設置(STACKED INSTALLATION).....	12
ラインアレイシステムの電源と動作について.....	13
各部の名称.....	14
電源パネル.....	14
コントロールパネル.....	14
電源および外部機器との接続.....	15
電源と電源リンクの接続.....	15
オーディオ信号とRDNetの接続.....	16
適合ケーブル.....	16
ラインアレイ構成時におけるDSPプリセットの設定と最適化..	17
dBTechnologies Composerソフトウェアについて.....	17
AURORA NETソフトウェアについて.....	18
トラブルシューティング.....	18
各種ダウンロード.....	19
dBTechnologies Composerのダウンロード.....	19
AURORA NETのダウンロード.....	19
ソフトウェアの使用に関して.....	19
F/Wアップデート.....	
(USB Burner Manager ソフトウェア).....	19
リモート機器の取扱説明書ダウンロード先.....	19
アクセサリの取扱説明書ダウンロード先.....	19
仕様.....	20
一般.....	20
寸法図.....	21
ブロック図.....	22

はじめに

このたびは、dBTechnologies VIO L212をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、未永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書（日本語）は、TASCAMのウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://tascam.jp/jp/>

- 最新版の取扱説明書（英語）については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、“VIO”の項目を選択し、上段“Manuals”の列から対象となるPDFファイルをダウンロードしてください。

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

同梱物

- 本体 (VIO L212)..... ×1
- 取扱説明書（本書、保証書付き）..... ×1

※ 本製品には、電源コードが付属されておりません。

専用電源コードに関するお問い合わせは、タスカムカスタマーサポート（巻末に記載）までご連絡ください。

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を“MAIN”のように“_”で使って表記します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAM およびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Apple、Mac、Mac OS、macOS、iPad および App Store は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- Microsoft、Windows、Windows Vista および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Neutrik は、Neutrik AG の登録商標です。また、powerCON および TRUE1 は、Neutrik AG の商標です。
- Digipro は AEB INDUSTRIALE SRL の商標です。
- dBTechnologies は A.E.B Industriale SRL のそれぞれの国における商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。
- Audinate®、Audinate のロゴ、および Dante は Audinate Pty Ltd による商標です。

別売りアクセサリ

設置、または輸送や本体設置のために下記の別売りアクセサリが、ご使用になれます。

設置用アクセサリ

- DRK-212 : フライバー (吊り下げ / スタック兼用)
- TF-VIO2 : VIO L210用吊り下げフレーム
(吊り下げ時: ラインアレイ構成による (※))
- ※ dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用して、設置するラインアレイ構成に適した数量を確認してください。
(dBTechnologies Composer ソフトウェアについては、17ページを参照してください)
- EFK-1 : 設置用脚キット (DT-VIOL212使用時)

運搬用アクセサリ

- DT-VIOL212 : VIOL-212用台車 (最大積載数 4台)
- DO-VIOL212 : VIOL-212用台車 (積載数 1台)
- DT-DRK212 : DRK-212用台車 (フライバー 2台積載可)
- TC-VIOL212 : 運搬用レインカバー (DT-VIOL212使用時)
- DTT-VIOL212 : 運搬用保護カバー (DRK-212トップ面保護)
- DPTC-1000MJP : メイン電源用コード
Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コード (10 m)
- DPTC-100L : 電源リンク用ケーブル
Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル (1 m)
- リモート機器 (ラインアレイ時の制御用)
RDNet Control 2 : 2系統/最大制御数 64台(1系統/32台)
RDNet Control 8 : 8系統/最大制御数 256台(1系統/32台)

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1~2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

ユーザー登録について

TASCAM のウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<https://tascam.jp/jp/login>

設置上の注意

- 設置は、資格や経験を持った人 (専門業者) が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 本機の動作保証温度は、摂氏 -15度~55度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気が多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム (うなり) を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付 (巻末に記載) されています。大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店 / ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック修理センター (巻末に記載) が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) までご連絡ください。
- 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害 (録音内容などの補償) の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番 (VIO L212)
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

本機の概要

dBTechnologies VIO L212は、ラージツールングアプリケーション向けに設計された3-Way アクティブ ラインアレイモジュールです。

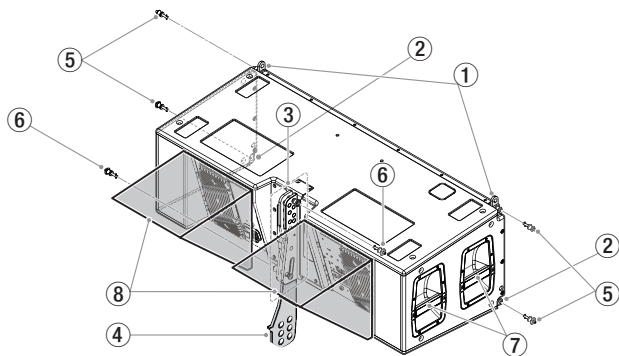
- プロが求める音響性能とサイズの最適化を実現しています。
 - 効率的な設置や解体を可能にする3点リギング機構を装備しています。
 - 運搬や設置のための専用アクセサリを用意しています
 - 本機は、32ビットDSPで制御されるRMS出力1600WのDigipro G4アンプを2基搭載
 - 入力信号へのハムノイズなど障害を完全に排除するADCフローティングテクノロジー採用
 - DSP制御とFIRフィルターによるリアルタイムフィルタリングが可能
 - 電源やオーディオ信号の最適なワイヤリングができるデジチェーンに対応しています。
 - RDNet制御対応(※)、AoIP Audinate Danteプロトコル用プリセットを搭載(Danteについては、将来対応予定)
- ※ 別売りのリモート機器 [RDNet Control2] または [RDNet Control 8] が必要になります。詳細は、リモート機器の取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(→ 19ページ「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」)
- 事前にシミュレーション可能なソフト (dBTechnologies Composer) や遠隔操作が可能な管理ソフト (dBTechnologies AURORA NET) をご用意しています。

本機の機構と音響上の特長

本機の機構

ラインアレイを簡単かつ確実に組立/解体できるよう、下記の機構を装備しています。

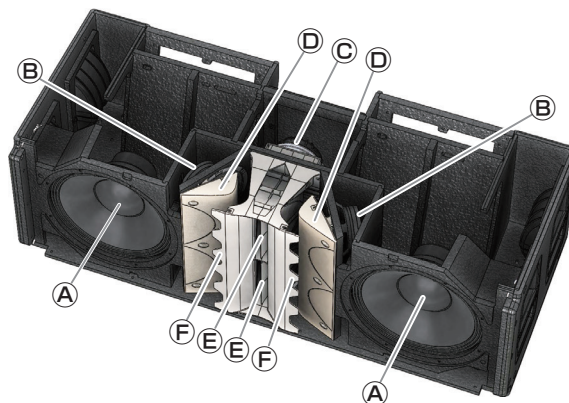
- 本機のフロント上部には、ビルトイン機構の格納式ブラケット(下図①)とフロント下部に接合用の取付け穴(下図②)を用意しています。
- リア部には、本機の角度設定用の目盛り付きブラケット(下図③)とスイング式ブラケット(下図④)を装備し、本機の全ての結合は、クイックリリース・ピン(下図⑤⑥)で接合します。
- 本体の両サイドのハンドル(下図⑦)は、設置の移動や持ち運びの際にご使用ください。また、本体リア側に雨天時でも使用可能にするレインカバー(下図⑧)を装備しています。(以降のイラストは、図を分かり易くするために省いてあります。)



音響上の特長

VIO L212の最適化された音響特性により、デザインやサイズ、機械的制約の中で、SPLや位相、周波数特性、音像定位などの調和を実現しました。主な特長は、以下の通りです。

- 最適化された内部形状を持つフェイズプラグ(Ⓓ)により、中域を一定に増幅します。
- 明確な音像やリスニングポジション外での特性向上に有効な中域トランスデューサーを配置しています。
- 一定の反射音(モード)の発生を避けて、中高域の一貫性を高めるホーン対数に沿った側面形状(Ⓕ)、高域の垂直指向性を制御するウェーブガイド(Ⓔ)を装備しています。



- Ⓐ [LF]: 高磁束密度型磁石を採用した2つの12インチ ウーファー(3インチ ボイスコイル、バスレフ式)
- Ⓑ [MF]: 高束密度型磁石を採用した4つの6.5インチ ミッドレンジ(2インチ ボイスコイル)
- Ⓒ [HF]: ダクト長1.4インチを持つ高磁束密度型磁石を採用した2つのコンプレッション ドライバー(3インチ チタニウムダイヤフラム、ホーンドライバー)
- Ⓓ 最適化された内部形状を持つフェイズプラグ
- Ⓔ ウェーブガイド
- Ⓕ ホーンの対数傾向に沿った側面形状

設置方法

最終的なラインアレイの特性や必要な角度が決まったら設置を始めてください。その際、すべてのオーディオ入力の感度が0dB(通常使用の場合)であることをチェックしてください。

メモ

通常の設置や安全な耐荷重は、dBTechnologies Composer ソフトウェアで確認することができます。

(17 ページの「dBTechnologies Composer ソフトウェア について」を参照)

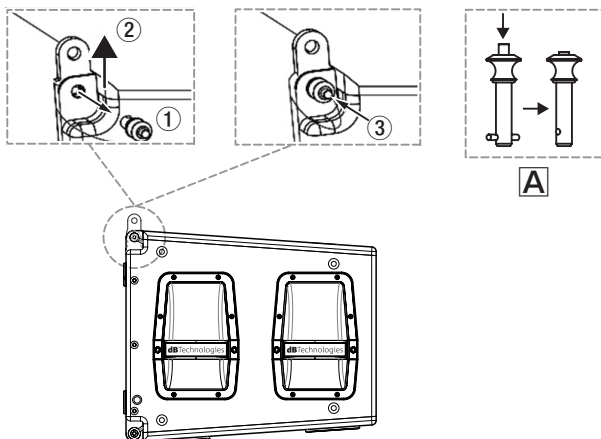
注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- 本体のハンドルや本体ブラケットを使って本機器を吊るさないでください。
- 別売りアクセサリを安全にお使い頂くために、使用前など定期的にしっかりと固定・組み立てられているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。
- スピーカーを吊り下げる場合は、すべての部品をチェックし、ダメージ・変形・歪み・欠落がないか確認し、設置中の安全に問題がないことを確認してください。
- スピーカーを重ねる場合、指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。

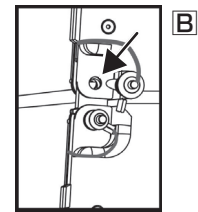
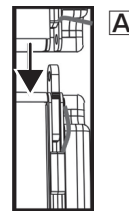
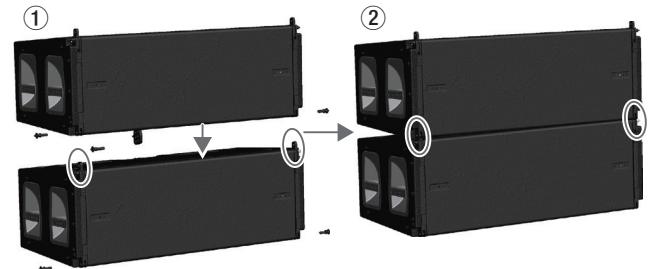
ラインアレイ構成による本機の連結

1. 本機のフロント上部(左右)のクイックリリース・ピン(下図①)を外し、格納式ブラケット(下図②)を持ち上げてください。ブラケットの穴位置を接合用の取付穴と合わせて、クイックリリース・ピン(下図③)を差し込んで固定してください。(クイックリリース・ピンの固定/解除方法は、図Aを参照してください。)

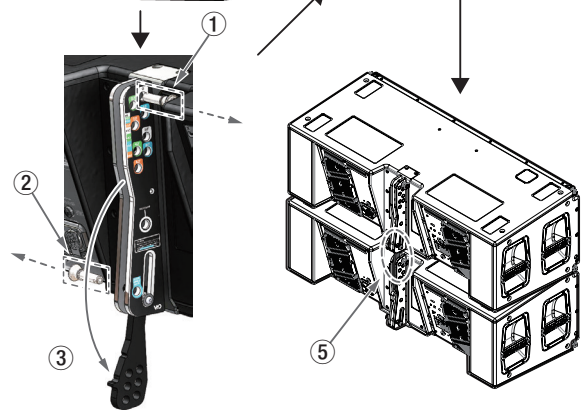
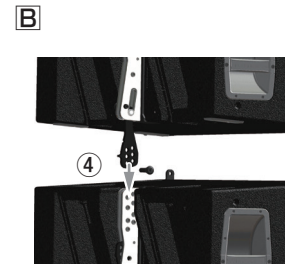
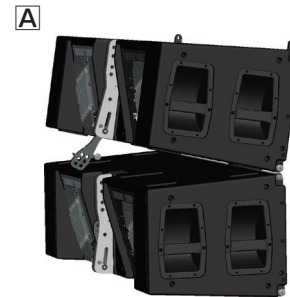


2. 上側になるスピーカーのフロント下部の取付穴(左右)からクイックリリース・ピンを外し、上側と下側のスピーカーを重ね(下図①)、フロントの格納式ブラケットの位置と合わせてください。(下図A)

上側のスピーカーで外したクイックリリース・ピンを取付穴(左右)に固定(下図B)し、上下のスピーカーを連結してください。(下図②)



3. 上側のスピーカーを少し持ち上げ(下図A)、リア部の目盛り付きブラケットからクイックリリース・ピン(下図①②)を外して、スイング式ブラケット(下図③)を起こし、下側(下図B)のスピーカーに差し込んで(下図④⑤)ください。



注意

- 続けて本機を連結する前に、重ねたスピーカーの全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて、確実に固定されているか確認してください。
指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。
- dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用すると、設置する方法によって、安全な耐荷重を確認することができます。(→ 17 ページを参照)

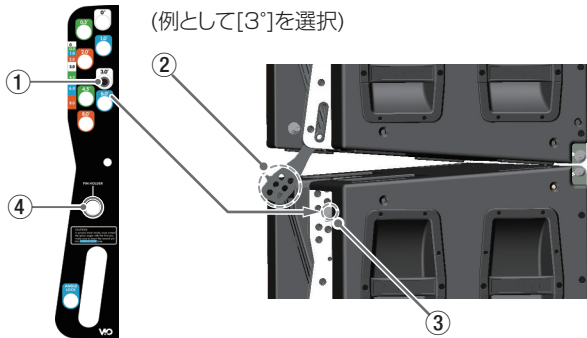
吊り下げ設置 (FLOWN INSTALLATION)

別売りの吊り下げフレーム (以降、"フライバー DRK-212" と称します) を使って、本機を吊り下げ設置することができます。

注意

設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か、安定した場所なのか必ず、確認してから行ってください。

- 7 ページの「ラインアレイ構成による本機の連結」手順に続いて、下側のスピーカーのリア部にある目盛り付きブラケットの位置決め穴 (下図①) から希望する角度 [0°~8°] を選択し、2本あるクイックリリース・ピンのどちらか1本で、上側のスピーカーのスイング式ブラケット (下図②) を目的の位置決め穴と固定してください。 (下図③)



残ったクイックリリース・ピンは、目盛り付きブラケットの [PIN HOLDER] (下図④) の穴に固定し、紛失しないようにしてください。

メモ

dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用するとラインアレイ構成に応じた最適角度が表示されます。

- 続けてその他のスピーカーにも上記の手順で、希望する角度を設定してください。

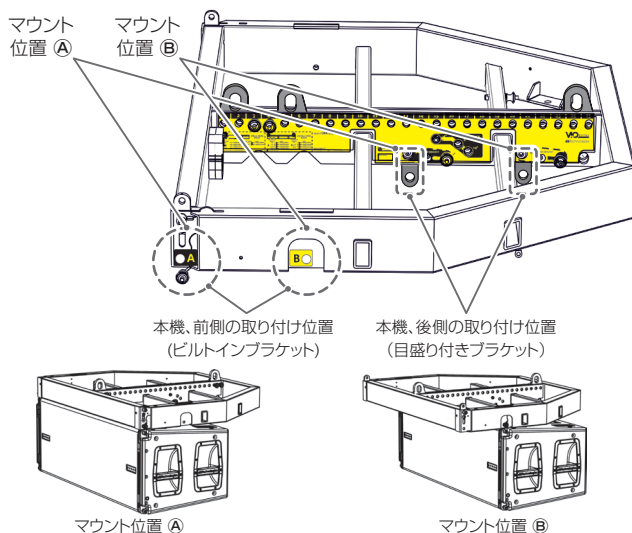
注意

フライバー DRK-212 に本機を結合する前に、重ねたスピーカーの全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて、確実に固定されているか確認してください。

フライバー DRK-212 に取付け

- 全てのスピーカーの連結が完了後、最上段の本機をフライバー DRK-212 に取り付ける準備をします。
本機を吊り下げる際のマウント位置 ① または ② を選択します。
(下図を参照)

フライバー DRK-212 に本機取り付け位置



注意

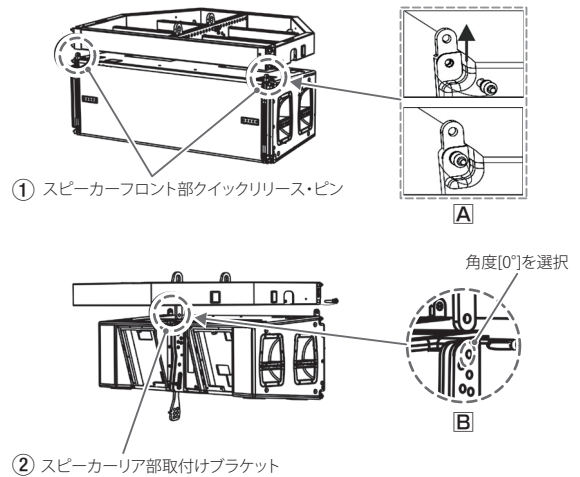
マウント位置 ① または ② により、ラインアレイ構成時の最大許容荷重が異なります。

- マウント位置 ① : 最大1100 kg
- マウント位置 ② : 最大1600 kg

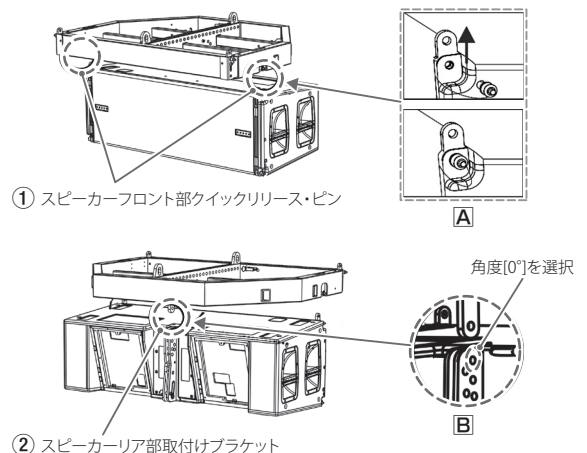
- 下図を参考にフライバー DRK-212 のマウント位置 ① または ② のフロント部 (下図①) とリア部 (下図②) のクイックリリース・ピンを外します。次に、リア部の取付けブラケットを引き出します。
 - 本機のフロント上部 (左右) のクイックリリース・ピンを外し、格納式ブラケット持ち上げ、外したクイックリリース・ピンで、格納式ブラケットを固定してください。 (下図 ①)
 - その後、フライバー DRK-212 のフロント部の取付け穴と本機の格納式ブラケットをクイックリリース・ピンで固定します。
 - 続いて、フライバー DRK-212 のリア部の取付けブラケットと本機のリア部の目盛り付きブラケットをクイックリリース・ピンで固定します。 (下図 ②)
 その際、リア部の目盛り付きブラケットの位置決め穴の角度 [0°] を選択してください。

フライバー DRK-212 のスピーカー取付例

マウント位置 ①



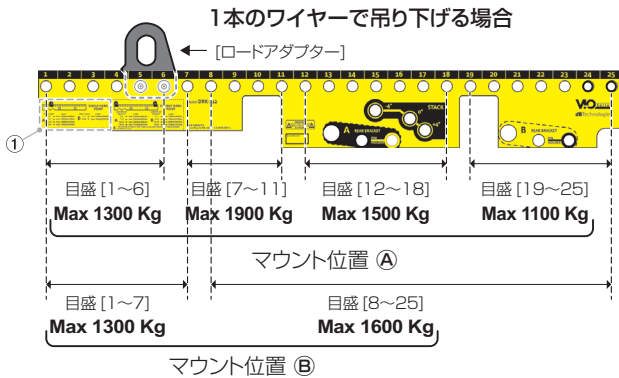
マウント位置 ②



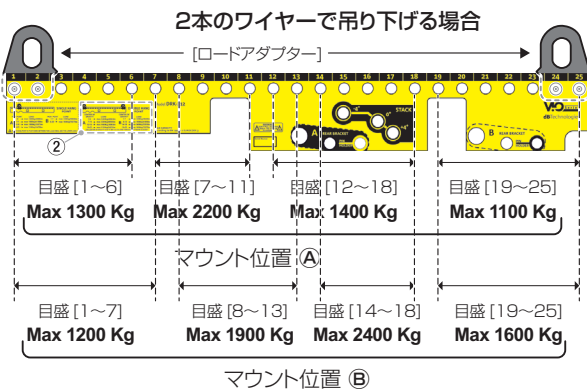
詳細は、アクセサリの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(→ 19 ページ「アクセサリの取扱説明書ダウンロード先」)

5. 吊り下げ設置時にフライバー DRK-212を、1本または2本のワイヤーで巻き上げる場合や本機のラインアレイ構成の重量によるマウント位置 ①または②で、フライバー吊り下げ金具(以降、「ロードアダプター」と称します)の固定箇所が異なります。
- 下図を参考に適切な取付け位置にロードアダプターを固定してください。

フライバー DRK-212のロードアダプター 取付け-1



* ロードアダプターの取付け位置は、①のラベルを参照してください。また、吊り下げ荷重の割当て目盛が重なる場合(例として、目盛[18-19])は、より低い荷重(Max 1100 Kg)側を想定したラインアレイ構成にしてください。

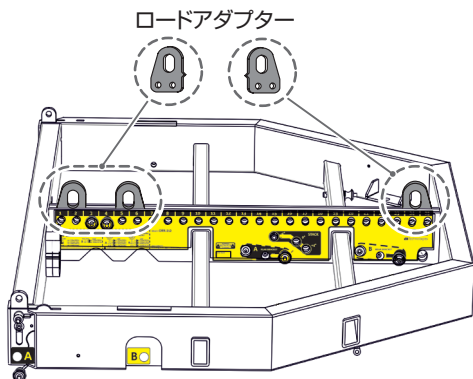


* ロードアダプターは、必ずフライバーの両端の穴に固定してください。(②のラベルを参照)

メモ

- dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用するとラインアレイ構成に応じたロードアダプターの取付け位置が表示されます。
 - ロードアダプターには、セット方向がありますので、吊り下げ金具の突起部が内側に向くようにセットしてください。
6. 下図を参考にロードアダプターをフライバー DRK-212にクイックリリース・ピンで固定します。

フライバー DRK-212のロードアダプター 取付け-2



台車による運搬とフライバーの設置

別売りの台車 DT-VIOL212で、ラインアレイ構成のスピーカーを設置場所まで運搬し、そのまま取付けまで可能です。

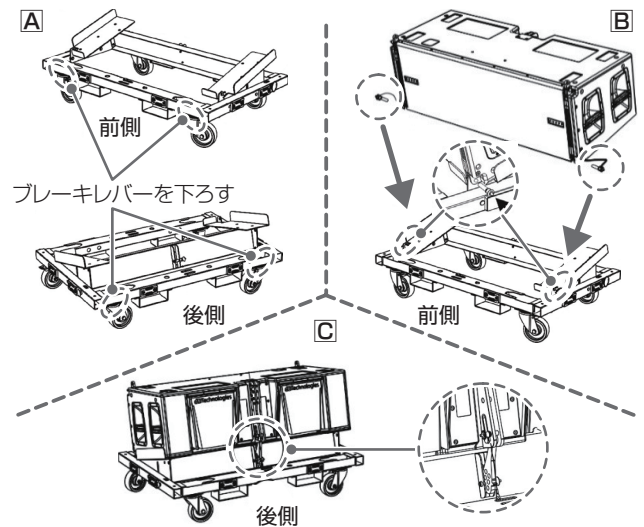
注意

- 台車で本機を一度に運べる数量は、4台です。
- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。また、安全上の理由から設置作業は必ず、2名以上で作業を行ってください。

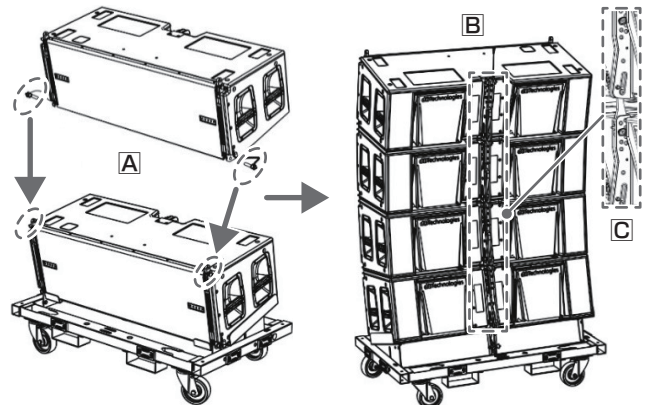
下記の手順は、フライバー DRK-212と台車 DT-VIOL212を組み合わせた運搬用の構成例です。

台車 DT-VIOL212での本機の運搬

1. 台車 DT-VIOL212の車輪に、前後4箇所の車輪ブレーキ(下図 A)を掛け、最初の本機をセットします。
- 本機、フロント部の左右の取付け穴とリア部のスイング式ブラケットを台車 DT-VIOL212の前後の取付け穴に合わせ、クイックリリース・ピンで固定します。(下図 B、C)



2. ラインアレイ構成で必要な台数を載せます。(最大積載数4台)
- 下図を参考に、ラインアレイ構成する2台目以降の組み立てを行います。
- 下側になる本機フロントの格納式ブラケット(左右)を持ち上げ、積載する上側の本機取付け穴(左右)を合わせ、クイックリリース・ピンで固定します。(下図 A)
 - 次に、上側の本機を少し持ち上げ、リア部の目盛り付きブラケットからクイックリリース・ピンを外して、スイング式ブラケットを起こし、下側の本機目盛り付きブラケットに差し込んで、ブラケットの位置決め穴から希望する角度の穴を選択し、その穴に2本あるクイックリリース・ピンのどちらか1本で固定してください。(下図 B、C)



- 残ったクイックリリース・ピンは、目盛り付きブラケットの [PINHOLDER] の穴に固定し、紛失しないようにしてください。組み立ての詳細は、7 ページの「ラインアレイ構成による本機の連結」を参照してください。

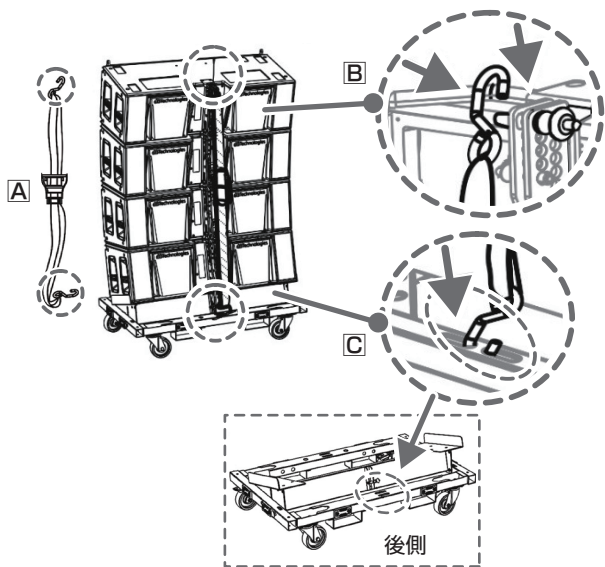
注意

作業完了後、全てのクイックリリース・ピンが、本機に正しく差し込まれて、確実に固定されているか確認してください。

メモ

dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用するとラインアレイ構成に応じた最適角度が表示されます。

3. 下図を参考に運搬時の安全を守るため転倒防止用に、付属のラチェット付き固定ベルト(下図 A)を取付けます。
 - 固定ベルトの片側(金具部分)を本機、最上段の目盛り付きブラケットの内側のクイックリリース・ピンの中央部に掛けます。(下図 B)
 - 次に、固定ベルトの反対側(金具部分)を台車 DT-VIOL212 のリア部のフレーム枠に掛けます。(下図 C)



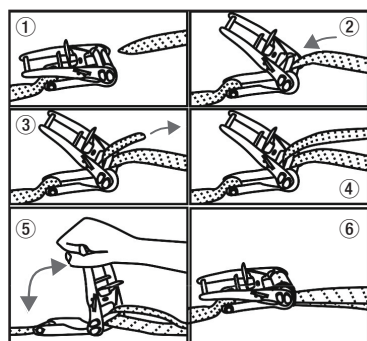
● 固定ベルトの巻き上げ

下図 ①～④ を参考にラチェット部にベルトをセットし、ベルトの長さを積載した本機のモジュールサイズに合わせます。

下図 ⑤ を参考にラチェットハンドルを数回動作させ、ベルトの緩み(※)がなくなるまで、巻き上げます。

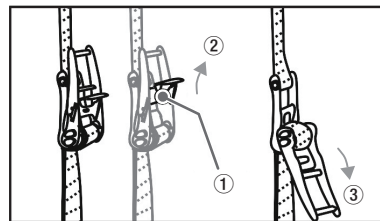
※ ベルトを締めすぎると本体の破損や変形が起こる可能性があります。その場合、不具合の原因になりますので、ご注意ください。

巻き上げ後、固定ベルトに緩みやガタが無い確認し、下図 ⑥ を参考にラチェットハンドルを折りたたんでください。



● 固定ベルトの解除

下図を参考に①のロックを②の方向に引き上げ、ロックが外れたら、ラチェットハンドルを③の方向に起こします。

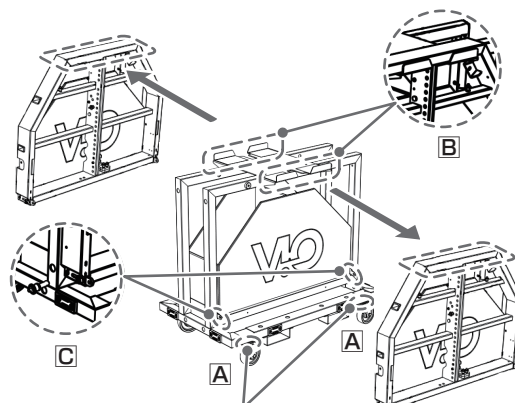


- 別売りの運搬時の保護カバー DTT-VIOL212 もご用意しております。必要に応じてお買い求めください。

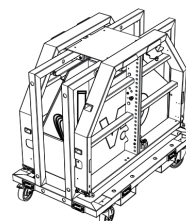


台車 DT-DRK212 でのフライバー DRK-212 の運搬

4. 別売りの台車 DT-DRK212 を使用して、一度にフライバー DRK-212 を2台、本機の設置場所まで運搬が可能です。
 - 台車 DT-DRK212 の車輪に、前後4箇所の車輪ブレーキを掛けます。(下図 A)
 - 台車 DT-DRK212 の突起部にフライバー DRK-212 のリア部を載せます。(下図 B)
 - 次にフライバー DRK-212 のフロント部の左右の取付け穴と台車 DT-VIOL212 の前後の取付け穴に合わせ、クイックリリース・ピンで固定します。(下図 C)



4輪のブレーキレバーを下ろす

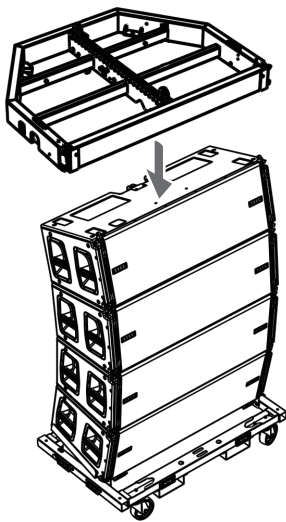


フライバー DRK-212での本機の設置

5. 台車 DT-VIOL212の前後の車輪ブレーキを解除して、設置場所までの安全を確認し、運搬を行ってください。設置場所に到着後にもう一度、台車 DT-VIOL212を前後の車輪ブレーキで固定します。

注意

- 本機を設置する前に、スピーカーモジュールの連結部分にある全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。
 - 設置部分の強度が、機器の総重量に十分対応可能か確認してください。（設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。）
6. 台車 DT-VIOL212に取付けた固定ベルトを取り外します。スピーカーモジュールの最上段の本機にフライバー DRK-212を取付けます。（フライバー DRK-212の取付けについては、8 ページの「フライバー DRK-212に取付け」を参照してください。）



7. 次に、15 ページの「電源および外部機器との接続」を参考に、電源およびオーディオ信号、RDNet ネットワークの接続をダイジーチェーンで接続し、設置の準備を行ってください。必要であれば、入力感度調整 / DSP 設定 (17 ページを参照) も行ってください。
8. 吊り下げ設置を行う前に dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用して、プロジェクトパラメーターを設定します。（17 ページの「dBTechnologies Composer ソフトウェアについて」を参照）

注意

プロジェクトパラメーターから、1 台目のマスター側となる本機のコントロール部で、その他のスピーカー本体やモジュールのパラメーターが正しく設定されていることを確認してください。

詳細は、17 ページの「ラインアレイ構成時における DSP プリセットの設定と最適化」を参照してください。

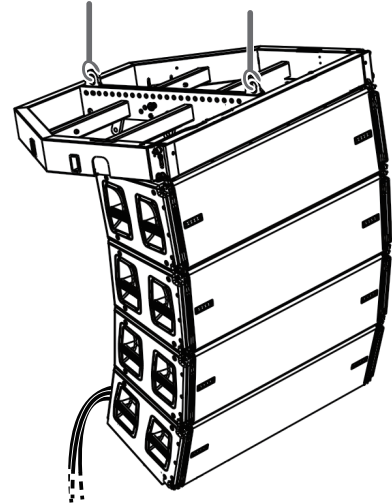
メモ

RDNet ネットワーク経由で接続すると、すべてのパラメーターをリアルタイムで遠隔操作することができます。

この場合、設置前に本機および各モジュールの初期設定を物理的に複製保存することをお勧めします。

RDNet ネットワークの接続方法は、16 ページの「RDNet の接続」を参照してください。

9. スピーカーモジュールを台車 DT-VIOL212から取り外せるように、台車 DT-VIOL212とスピーカーモジュールの最下部を固定したクイックリリース・ピンを解除後、フライバー DRK-212 に取付けたロードアダプターにリフトアップ用吊り器具（市販のシャックルやスリングベルト等）を取付けてください。



吊り下げ準備が完了したら、台車 DT-VIOL212 の車輪ブレーキを解除し、作業の邪魔にならない位置に戻してください。

10. 下記条件にて、スピーカーモジュールを持ち上げてください。
 - フライバー DRK-212 のロードアダプターが、1 点吊り下げの場合、1 台の電動チェーンブロックを用意し、周囲の安全を確認してから、慎重に持ち上げてください。
 - フライバー DRK-212 のロードアダプターが、2 点吊り下げの場合、2 台の電動チェーンブロックを用意して周囲の安全を確認してから、慎重に持ち上げてください。
11. 設置箇所まで慎重に持ち上げたら、専用の固定用器具（ブラケットやクランプ）でしっかりと取付けてください。

注意

- 安全で安定した運用のみならず、起こりうる自然現象も考慮し、ラインアレイを様々な手段で固定してください。
- 使用者は、本製品が使用されている国の安全に関する規制および法律を遵守する必要があります。
- 安全な運用のために、使用前にすべての部品の動作と結合部を定期的にチェックしてください。
- 吊り下げで使用する場合やプロオーディオ スタックの設計、計算、設置、テスト、メンテナンスは、認定された担当者が行ってください。

他のラインアレイ構成 (VIO L210) を吊り下げる場合

別売りの専用フレームを使用し、VIO L210ラインアレイ構成を補助スピーカーとして、本機のスピーカーモジュールに設置できます。

別売り専用フレーム

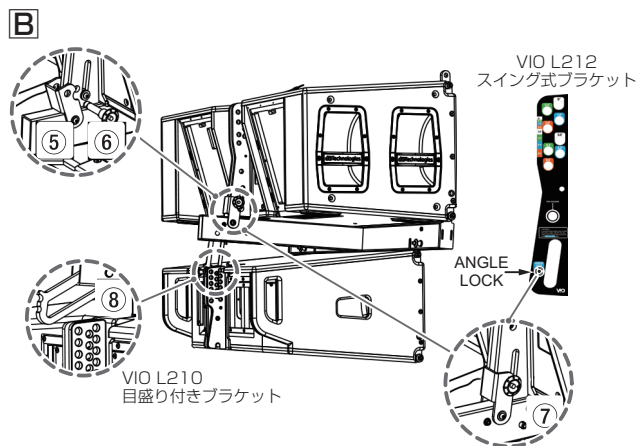
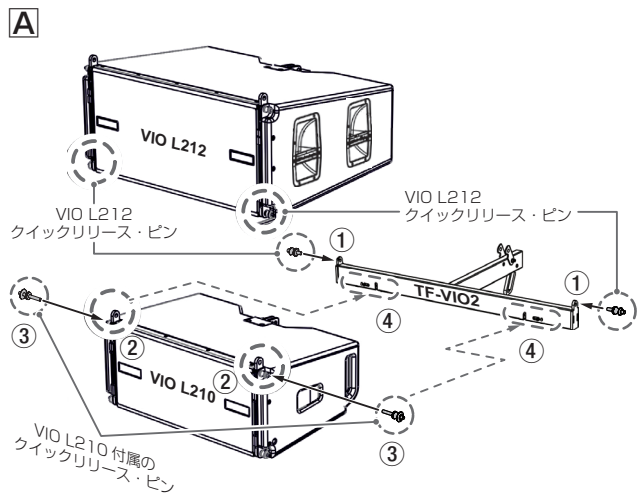
- TF-VIO2 (以降、"フレーム TF-VIO2" と称します)
VIO L210専用吊り下げフレーム
(吊り下げ時：ラインアレイ構成による※)

※ dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用すると、設置するラインアレイ構成に応じた数量を確認できます。

1. 設置する本機のスピーカーモジュールの最下段に、下図を参考にフレーム TF-VIO2 を取り付けて、本機を吊り下げます。

- 下図 A を参照して、フレーム TF-VIO2 の所定の位置 (下図 ①) に本機の前側下部のクイックリリース・ピンを外して取付けます。
- VIO L210ラインアレイ最上段の格納式ブラケットを引き上げ (下図 ②)、付属のクイックリリース・ピン (下図 ③) で固定し、その状態で、フレーム TF-VIO2 の固定機構 (下図 ④) に取付けます。
- 下図 B を参照して、フレーム TF-VIO2 付属のクイックリリース・ピンで本機の見盛り付きブラケットを所定の位置 (下図 ⑤⑥⑦) に固定し、フレーム TF-VIO2 のスイング式ブラケットを VIO L210 の見盛り付きブラケットに差し込み (下図 ⑧)、目的の角度 (※) にして取付けます。

※ dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用すると、各ブラケット類の最適角度が表示されます。



床設置 (STACKED INSTALLATION)

フライバー DRK-212 を使って、水平な床やサブウーファー上に本機を設置することができます。

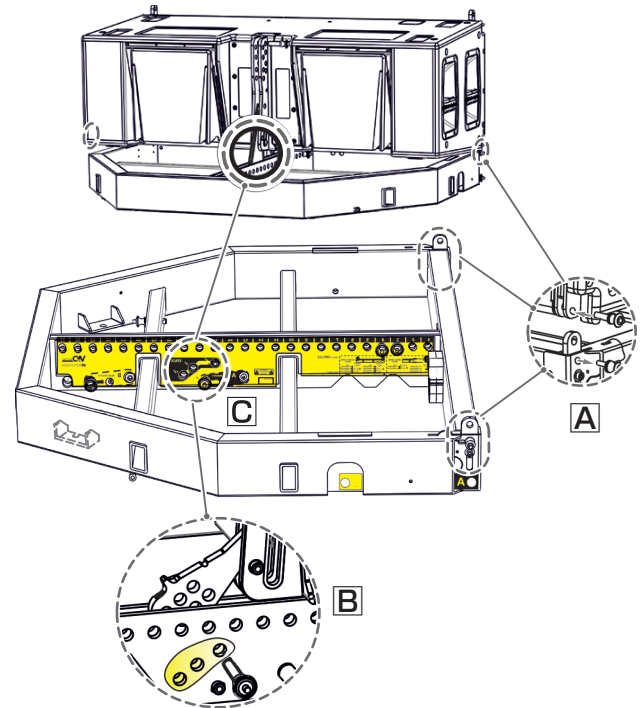
注意

フライバー DRK-212 にロードアダプターが付いている場合は、取り外してください。

フライバー DRK-212 に本機の取付け

2. 下図 A を参照して、フライバー DRK-212 の前側上部から格納式ブラケットを引き上げ、クイックリリース・ピンで固定します。
続いて、本機の前側下部の接合用の取付け穴とフライバー DRK-212 の格納式ブラケットを合わせ、クイックリリース・ピンで取付けます。
3. 次に下図 B を参照して、本機のスイング式ブラケットを起し、スピーカーをゆっくりと降ろしながら、フライバー DRK-212 のセンターラダーにある [STACK (下図 C 参照)] に差し込み、希望する角度 [-4° / 0° / +4°] を選択し、クイックリリース・ピンで固定します。

フライバー DRK-212 に本機を取付け



注意

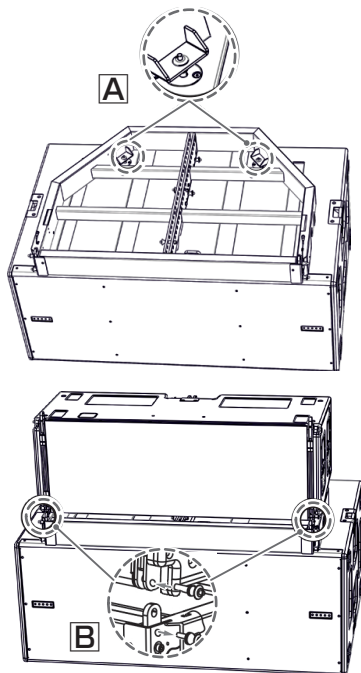
作業完了後、全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。

詳細は、アクセサリの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(→ 19 ページ「アクセサリの取扱説明書ダウンロード先」)

フライバー DRK-212を使用したサブウーファー上の設置
フライバーDRK-212を使って、下記条件で本機をサブウーファー
VIO S218上に設置することができます。

- サブウーファー VIO S218が1台のみ：本機2台で設置可能
 - サブウーファー VIO S218を2台重ね：本機1台を設置可能
1. 下図 **A** を参照して、フライバー DRK-212のサブウーファー
取付けブラケットの穴を VIO S218 上面の取付け穴に合わせ
て、クイックリリース・ピンで固定します。
 2. 次に下図 **B** を参照して、フライバー DRK-212に最下段にな
る本機を取り付けます。
取付け方法は、12 ページの「床置設置 (STACKED
INSTALLATION)」を参考に取付けてください。

フライバー DRK-212の取付け例



注意

重ねたスピーカーの連結が完了後、全てのクイックリリース・ピンが、正しく差し込まれて確実に、固定されているか確認してください。

詳細は、アクセサリーの取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(→ 19ページ「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」)

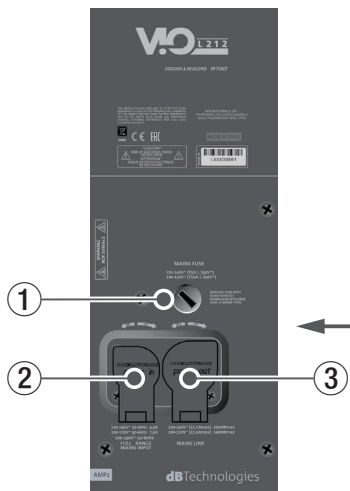
ラインアレイシステムの電源と動作について

適切な電源装置の使用と配線規模は、モジュールとシステムの正しい動作に影響します。

- ラインアレイモジュールが消費する電流は絶えず変化します。(起動時、アイドル状態、フル動作時)
- 電源ケーブルの長さや断面積による電圧降下が発生します。一般的にこれらの低下はケーブルの長さに直接比例し、ケーブルの断面積に反比例します。
- ケーブルによって最大5%の電圧降下が発生します。すべての箇所直径が2mm²を超える断面積の電源ケーブルを使用してください。

各部の名称

電源パネル



① MAINS FUSE

第2アンプ用ネットワークフューズホルダー

万一、動作しなくなった場合は、電源コードを抜いてティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。

② FULL-RANGE MAINS INPUT

AC電源端子 (Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子)

専用の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コード (別売り) を接続します。

電源コードを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。

注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

③ MAINS LINK

電源リンク端子 (Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子)

他のアクティブスピーカーなどに電源を供給する端子です。

電源 LINK ケーブル (別売り) を接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。

ご使用時は、専用の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル (別売り) をお使いください。

MAINS LINK (電源 Link 端子) の最大供給電流は、下記の表に記載してある許容範囲まで、スピーカーを接続することができます。

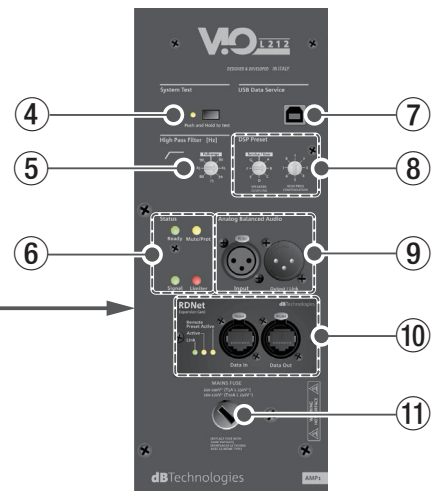
MAINS LINK 端子の最大供給電流 (AC100-120V 時)

max 12.5A / 1400 W

注意

- 専用の電源 LINK ケーブル以外の接続で、他のアクティブスピーカーなどに電源供給を絶対に行わないでください。その場合、感電および機器を破損する恐れがあります。
- Neutrik 社製のケーブルについては、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) にご相談ください。
- 指定の台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。

コントロールパネル



④ System Test

- Push and Hold to test

スイープ音によるテストで、本機の各スピーカーユニットとウーファアの整合性を確認できます。

このテストで、本機の簡易的な動作チェックが行えます。

⑤ High Pass Filter

ハイパスフィルターを直接適用できます。カットオフ周波数は、下記の周波数から選択できます。

- Fullrange、60、65、70、75、80、85、90 Hz
(不適用時のスタンバイ位置は、フルレンジです)

⑥ Status

- Limiter LED (赤色)

入力信号の歪み音や他の不具合で内部リミッターが作動した場合に点滅します。

これは、アンプ回路が信号の歪みを防ぎ、ユニットが過負荷になるのを防ぎます。

注意

Limiter LED が連続して点灯した状態は、入力信号の歪み音を伴う、過度の負荷をかかっている状態を示しています。そのままの状態、長時間連続使用しないでください。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

- Signal LED (緑色)

オーディオ信号が入力されている時に点滅します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

- Mute/Prot LED (黄色)

電源投入時に数秒間点灯し、正常な状態で動作している時は消灯しています。

アンプ内部の温度をモニターし、オーバーヒートの保護回路が作動した場合、Mute/Prot LED (黄色) が点滅することで知らせます。適正な内部温度になってから、音量と全ての機能は元通りに復帰し、消灯します。

その他の不具合で停止した場合は、点灯します。

- Ready LED (緑色)

正常に状態で動作している時に点灯します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

⑦ USB Data Service

サービスデータ 端子 (Mini USB B タイプ)

本機の F/W をアップデートする際、使用します。

ダウンロード方法は、19 ページの「F/W アップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)」を参照してください。

⑧ DSP Preset

ラインアレイ設定用 DSP プリセットセクター

● SPEAKERS COUPLING (低域調整)

ラインアレイを構成するスピーカーの数に、合わせて低域を調整します。また、[Service/User] の位置は、RDNet 接続で使用する際や USB 端子を使った F/W(※) の更新時にも使用します。

※ F/W の更新については、19 ページの「F/W アップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)」を参照してください。

● HIGH FREQ COMPENSATION (高域補正)

設置方法やラインアレイの角度に合わせて中高域を調整します。DSP プリセットの設定方法の詳細は、17 ページの「ラインアレイ構成時における DSP プリセットの設定と最適化」を参照してください。

⑨ Balanced Audio

● Input

XLR 端子によるアナログバランス入力 端子で、ラインレベルのバランス信号入力が可能です。

● Output/Link

XLR 端子によるアナログバランス出力 端子で、他のアンプ内蔵スピーカーにバランス信号を送出します。

注意

電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。

⑩ RDNet (etherCON 端子)

データネットワーク接続の入出力です。

ネットワーク接続で各種設定を行うことが可能です。

(RDNet 接続時は、本体の DSP Preset ⑧、および High Pass Filter ⑤ の設定値はバイパスされ、RDNet ネットワーク経由での設定が優先されます。)

● Data in

別売りのネットワークコントローラー RDNet Control 2 または Control 8 に接続します。

● Data Out

ラインアレイ構成で他のスピーカーにデジチェーン接続して使用します。

ステータスLED

● Link LED (黄色)

RDNet ネットワークがデバイスを認識した場合に点灯します。

● Active LED (緑色)

RDNet ネットワーク上でデータの通信を行っている際、点滅します。

● Remote Active Preset LED (緑色)

本機が RDNet ネットワーク上で、制御 (リモートコントロール) されている場合に点灯します。

RDNet ネットワークの使用方法の詳細は、19 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

⑪ MAINS FUSE

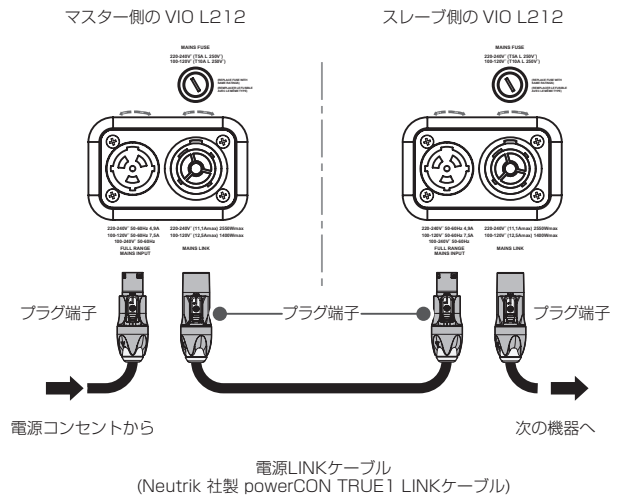
第1アンプ用ネットワークフューズホルダー

万一、動作しなくなった場合は、電源コードを抜いてティアック修理センター (巻末に記載) にご相談ください。

電源および外部機器との接続

本機は、複数の同一機種をデジチェーン接続でき、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカー (マスター側) から2台目以降のスピーカー (スレーブ側) に供給することができます。

電源と電源リンクの接続



電源の接続

専用の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コード (別売り) を FULL-RENGE MAINS INPUT ② (AC 電源 端子) に接続し、プラグ端子を時計回りに回転させて、ロックしてください。

ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

注意

電源コードは、専用の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コード (別売り) をご使用ください。それ以外のケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。

電源リンクの接続

MAINS LINK ③ (電源 Link 端子) は、マスター側からスレーブ側に専用の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 LINK ケーブル (別売り) を使って、複数の同一機種に電源供給することができます。

● まず、マスター側の本機の FULL-RENGE MAINS INPUT ② に、別売りの Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードを前述の「電源の接続」の方法で接続し、その片側を電源コンセントに接続します。

● 次に、別売りの Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブルで、マスター側の MAINS LINK ③ とスレーブ側の FULL-RENGE MAINS INPUT ② に接続します。

上記の接続を繰り返し、マスター側の MAINS LINK ③ の下側に記載された最大供給電流に達するまでスレーブ側のスピーカーを接続することが可能です。

注意

● 濡れた手または、機器や電源コード (または電源 LINK ケーブル) が濡れた状態で、絶対に電源コードやケーブルの接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。

● ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。

● 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

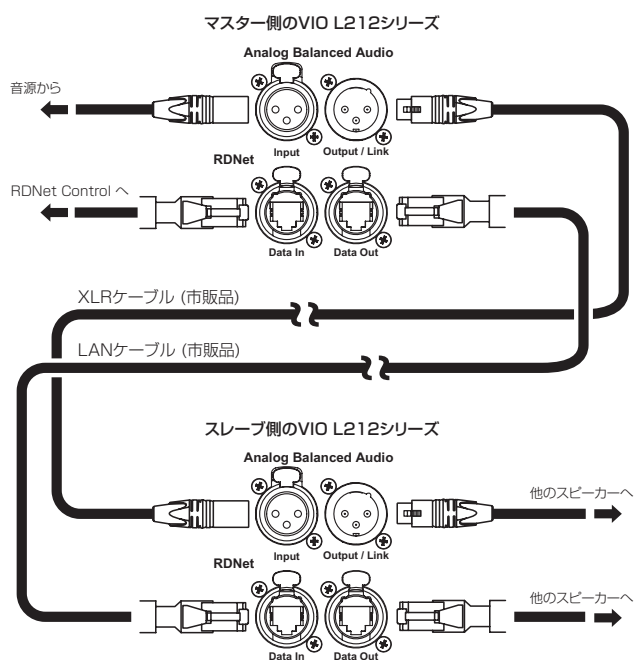
オーディオ信号とRDNetの接続

オーディオ信号の接続

2台以上のスピーカーを同一音源に接続する場合、マスター側からスレーブ側へ送出することができます。

この接続を行うには、まず音源機器からマスター側のバランス入力 (Input 端子) に接続した後、バランス XLR ケーブル (市販品) を使ってマスター側のバランス出力 (Output Link 端子) とスレーブ側のバランス入力 (Input 端子) に接続します。

この接続を繰り返すことで、以降のスピーカーを接続することができ、スピーカー配置に沿った接続が可能です。



注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- ラインアレイ構成でオーディオ信号の接続は、最上段の本機をマスター側として接続をしてください。

RDNetの接続

本機を RDNet 接続でリモート操作を行う場合、DSP Preset ⑧ スイッチを [Service/User] の位置にセットします。

次に、別売りのネットワークコントローラー (RDNet Control 2 や RDNet Control 8) を使用して、制御したいスピーカーの Data In 端子 (etherCON 端子) にコントローラーからの LAN ケーブル (市販品) を接続します。

1つのラインアレイ構成全体を制御する場合、マスター側の Data Out 端子からスレーブ側の Data In 端子に LAN ケーブル (市販品) で接続します。

この接続を繰り返すことで、接続されたスピーカーを制御することができます。

同様に複数のラインアレイ構成がある場合、制御できるスピーカーの最大数は下記となります。

- RDNet Control 2 : 1 ch/32 台 × 2 ch 最大64台
- RDNet Control 8 : 1 ch/32 台 × 8 ch 最大256台

RDNet ネットワーク上に接続した機器が認識された場合、Link LED が点灯します。

注意

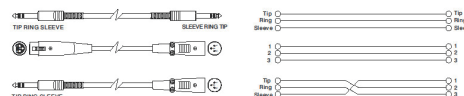
本機をネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整 / DSP 等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体での設定は、使用されません。)

RDNet ネットワークの使用の詳細は、19 ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

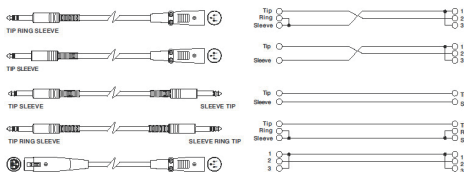
適合ケーブル

本機に適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

バランスケーブル



アンバランスケーブル



注意

- ケーブルの接続 / 取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

ラインアレイ構成時における DSP プリセットの設定と最適化

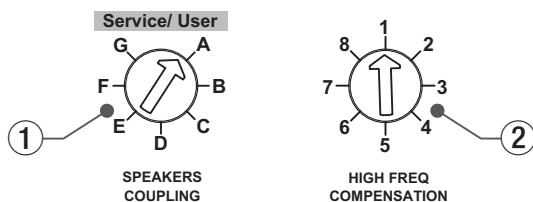
ラインアレイ構成は、様々な使用状況において多数の利点をもたらします。

- 中長距離で特に効果の大きい、スピーカーのフロント方向に沿った均質な音圧レベル(max SPL 142 dB)を出力可能です。
- 反響しやすい大きな空間における、不要な音の分散を抑え、オーディエンスに正確にフォーカスした指向性を確保しています。
- ラインアレイの最適化は、低域、中域、高域ごとに音の特性を調整します。
- ラインアレイからの距離が離れると、距離に起因する減衰も増加し、特に高域の減衰は顕著になります。
- ラインアレイの角度が増えると、中域の減衰効果が強くなります。
- ラインアレイのスピーカー数が増えると、低域が目立つようになります。

DSP 制御によるコントロールで、ラインアレイ構成時における本機を最適な状態にします。

下図の DSP プリセット部に2つ(低域 ①、中高域 ②)の調整用コントロールセレクターを搭載し、ユーザーインターフェースは、シンプルかつ直感的です。

DSP Preset



SPEAKERS COUPLING (低域調整)

ラインアレイを構成するスピーカーの数に合わせて、低域を調整します。Speaker Coupling の A ~ G の中から選んで設定してください。

[Service/User]

RDNet 接続を行う場合や、F/W(*) 更新時にこの位置に設定します。また、RDNet 接続時に各設定値の保存先として使用します。

- ※ F/W の更新は、19 ページの「F/W アップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)」を参照してください。

HIGH FREQ COMPENSATION (高域補正)

設置方法やラインアレイの角度に合わせて、中高域を調整します。High Freq Compensation の1~8の中から選んで設定してください。

メモ

- RDNet ネットワーク経由で接続し、AURORA NET ソフトウェアを使用することで、すべてのパラメーターをリアルタイムで遠隔操作することができます。この場合、設置前に本機および各モジュールの初期設定を物理的に複製保存することをお勧めします。
- dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用するとラインアレイ構成に応じたパラメーター計算が行えます。

注意

本機を RDNet ネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整 / DSP 等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体での設定は、使用されません。)

dBTechnologies Composer ソフトウェアについて

VIO シリーズをお使いになる場合に、無料の dBTechnologies Composer ソフトウェアを併用されることをお勧めします。

このソフトウェアを使用すると、狙ったカバレッジを実現するためのラインアレイ構成のモジュール角度の解析や、選択したエリアに合わせたラインアレイ構成のシステム設定が行えます。また、設置の安全性を確認するためのツールとしても有効で、**フライバー DRK-212**の静的動作をシミュレートすることで効率的に、耐荷重制限内での取付け可能なモジュールの数をあらかじめ確認することができ、ラインアレイモジュール設置の安全性を確認できます。dBTechnologies Composer ソフトウェアのダウンロードは、19 ページの「dBTechnologies Composer のダウンロード」を参照してください。

dBTechnologies Composer の主な構成

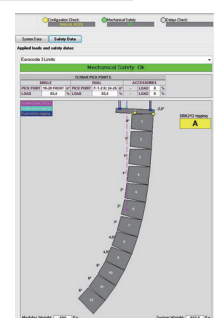
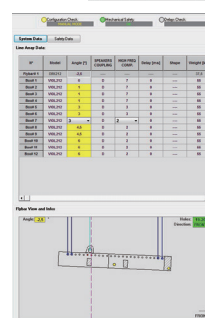
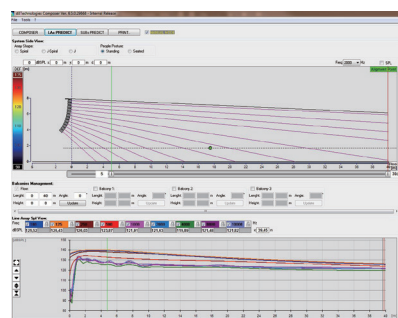
- **Composer** : 設計データ入力概要
- **LA's Predict** : ラインアレイの安全性チェック、構成、およびシミュレーション
- **SUBs Predict** : サブウーファーの安全性チェック、構成、およびシミュレーション

この章では、dBTechnologies Composer を使用した本機のラインアレイ構成で、吊り下げ設置時の安全面や設置に関する説明になります。

LA's Predict 部には、VIO システムの適切な構成や、吊り下げ設置時または床設置時に必要な全ての情報が含まれています。これらを利用するには、まず **Composer** セクションに含まれるプロジェクトのデータを入力する必要があります。

- システムデータのサブページには、さまざまなモジュールの角度調整や DSP プリセットに関する様々なパラメーター、**フライバー DRK-212**の角度調整など参考値があります。最終的な角度は、**フライバー DRK-212**の取扱説明書(*)に記載されているように、レーザー傾斜計を使用して現場で検出することができます。

- ※ **フライバー DRK-212**や設置用アクセサリーの詳細については、19 ページの「アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先」から対象のアクセサリー取扱説明書をダウンロードして参照してください。



(dBTechnologies Composer ソフトウェア イメージ図)

AURORA NETソフトウェアについて

無料の AURORA NET ソフトウェアを使用して、RDNet 接続による本機のパラメーター(※)をリモートコントロールで設定可能です。

※ パラメーター設定は、RDNet接続が正しく行われた後、AURORA NETソフトウェアを使用することで、本機で設定するよりも、多くのパラメーターをリモートコントロールで設定できます。

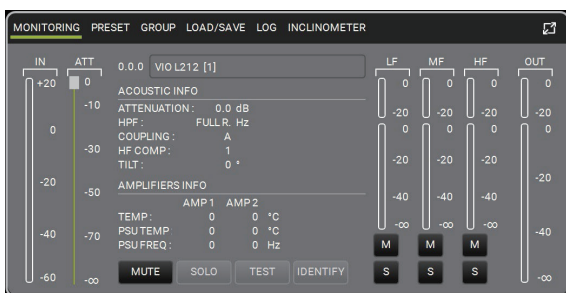
AURORA NET ソフトウェアのダウンロードは、19 ページの「AURORA NET のダウンロード」を参照してください。

AURORA NET の主な特長

- マルチプラットフォーム設計 (Windows、mac OSx)
- 動作中にパラメーターとその履歴をより正確に制御可能
- さまざまなプリセットを呼び出し可能
- 軽快な動作によるデータ表示と最適化された使いやすさ
- RDNet を使用したネットワーク機器の制御

RDNet Control 2 および RDNet Control 8 で構成されたシステムをネットワーク (RDNet ネットワーク) 上で認識し、オンライン作業が可能です。

- オフライン作業でプロジェクトの管理が可能
オフラインでプロジェクトの作成 / 編集 / 保存を行い、固定設備やライブ会場などでプロジェクトの読み込み / 更新が可能です。



(AURORA NET ソフトウェア イメージ図)

トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

スピーカーの電源が入らない

- 電源機器をチェックして、電源が供給されている事を確認してください。
- Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コードの端子が、緩みやガタつき等がなく、しっかり接続されているか確認してください。

スピーカーの電源は入るが、音が出ない

- 入力端子が正しく接続されており、Neutrik 社製 powerCON TRUE1 電源コードを使用されているか、確認してください。
- ケーブルに損傷がないか確認してください。
- 接続したミキサーなどの音源に、電源が入っている状態で、オーディオ信号が出力されているか確認してください。
- 接続した機器や本機の入力感度調整ボリュームをチェックし、適正なボリューム位置に合わせてください。

スピーカーからの音が歪んでいる、または十分な音量でない

- 入力感度調整ボリューム位置を適切な値に合わせてください。
- 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、新しいケーブルと交換してください。(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは、新しいものと交換してください。)
- 再生音に影響する DSP プリセットの設定を確認してください。詳細は、17 ページの「ラインアレイ構成時における DSP プリセットの設定と最適化」を参照してください。

Mute/Prot LED (黄色) が点灯した場合

本機に不具合が発生した場合、Mute/Prot LED (黄色) が点灯し、音量がミュートします。

その場合、以下の項目をチェックしてください。

- 本機が正しく電源に接続されているか確認してください。
- 電源から適切な電圧が、供給されているか確認してください。
- アンプ部が過熱していないか確認してください。

これらのチェックをした後も、Mute/Prot LED (黄色) が消えない場合、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) にお問い合わせください。

各種ダウンロード

dBTechnologies Composerのダウンロード

dBTechnologies の下記ウェブサイトより、本ソフトウェアをダウンロードできます。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

ダウンロードページから "Software & Controllerr" の項目を開いて、上段の "Software" の列から対象となる名前の圧縮ファイル (zip 形式) をダウンロードしてください。

- セットアップファイル
"dBTechnologies_Composer_setup_x.x.x.zip"

"Software & Controllerr" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となる名前の PDF ファイルをダウンロードしてください。

- ソフトウェア取扱説明書
"Manual-dBTComposer_REVx-x.pdf"

セットアップファイルを解凍後、ソフトウェア取扱説明書の手順に従って操作してください。(※)

AURORA NETのダウンロード

ダウンロードとインストール方法

まず、dBTechnologies のウェブサイトで、お客様のユーザー登録 (→ [5ページ](#)を参照) を行ってください。

ユーザー登録を完了し、ログインを行わないとソフトウェアのダウンロード先 (MY DOWNLOAD ページ) に移動しません。

ダウンロード

ログイン後、dBTechnologies の下記ウェブサイトで本ソフトウェアをダウンロードできます。

- <http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>
ダウンロードページから "Software&Controller" の項目を開いて、上段の "Software" の列から Windows または Mac OS の圧縮ファイル (Zip 形式) を選択すると、MY DOWNLOAD ページに移動します。

そのページから目的のファイルを選択して、圧縮ファイルをダウンロードしてください。

インストール

- Windows
ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、自己解凍型のファイルを開き、現れたフォルダー内の setup.exe ファイルを開いてください。
- Mac OS
ダウンロードしたディスクイメージを開き、AURORA NET のアイコンをアプリケーションフォルダーにドラッグしてください。

注意

ソフトウェアをダウンロード中は、PC の電源を切らないでください。故障の原因になります。

ソフトウェアの使用に関して

本ソフトウェアは、AEB INDUSTRIALE s.r.l. に帰属し、使用に際しては、同社の定める使用許諾条件によります。

F/Wアップデート

(USB Burner Manager ソフトウェア)

本機の全ての機能を確実に使うためには、F/W を常に最新のものにしておくことをお勧めします。

定期的に dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページをチェックしてください。F/W の更新が合った場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

- ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

1. 上記の Download ページから "Software & Controllerr" を開いて、[USB BURNER MANAGER] ソフトウェアをダウンロードし、表示される手順に従ってインストールしてください。
2. 上記の Download ページから "VIO" を開いて、上段の "Firmware" の列と対象となる "VIO" 機種種の行から、最新の F/W (zip 形式) をダウンロードしてください。
ダウンロード後、解凍してください。
3. [USB BURNER MANAGER] ソフトウェアを起動し、画面右上から、"File Opening..." を選択してください。
4. 先程ダウンロードした F/W を選択してください。
(お使いのシステムに最適かチェックします。)
5. UPDATE をクリックし、アップデート作業をスタートしてください。

注意

F/W アップデート後の電源投入で、保存した各種設定が失われる場合があります。

リモート機器の取扱説明書ダウンロード先

リモート機器の取扱説明書については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controllerr" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となる名前の PDF ファイルをダウンロードしてください。

- 取扱説明書

- RDNet Control 2
"RDNet CONTROL 2_cod420120189_Revx.x-MAN.pdf"
- RDNet Control 8
"RDNET CONTROL8_cod420120183_Revx.pdf"

- ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先

各アクセサリーの取扱説明書については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Installation" の項目を開いて、上段の "Manuals" の列から対象となるアクセサリーの PDF ファイルをダウンロードしてください。

- ダウンロードページ

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

仕様

形式

3ウェイ アクティブ ライン アレイ スピーカー

スピーカーユニット

HF : 1.4インチ ホーン型×2
(3インチ ボイスコイル採用)
MF : 6.5インチ ホーン型×4
(2インチ ボイスコイル採用)
LF : 12インチ×2
(3インチ ボイスコイル採用)

指向性

水平×垂直方向 : 90°×可変(※)

※ モジュール数と構成による

アンプ部

形式 : Digipro G4 クラス D×2
出力 : 1600 W×2 (合計 3200 W)
RMS 出力 : 3200 W×2 (合計 6400 W)
冷却システム : 自然対流式+冷却ファン
(下部通風孔あり)

DSP 部

コントローラー : DSP 32 bit
AD/DA 処理 : 24 bit/96 kHz
デジタルフィルタ : リニアフェーズ FIR フィルター
コントロール : ハイパスフィルタースイッチ、ラインアレイ設定用 DSP プリセットセレクター×2、インピーダンステストスイッチ (スウィープ音付き)
リミッター : デュアルアクティブマルチバンドピーク、RMS、サーマル

周波数特性

-10 dB 時 : 49.8 Hz - 20000 Hz
-6 dB 時 : 55 Hz - 18600 Hz

音圧レベル

最大 SPL : 142 dB
(周波数 / DSP プリセット設定による)

外部入力

Input 端子 : XLR 端子 (メス) × 1 (バランス)
USB 端子 : mini-B タイプ × 1
RDNet 端子 : etherCON 端子 × 1

外部出力

Output/Link 端子 : XLR 端子 (オス) × 1 (バランス)
電源 Link 端子 : powerCON TRUE1 端子 × 1 (Neutrik 社製)
(最大供給電流 : 12.5 A/1400 W)
RDNet 端子 : etherCON 端子 × 1

一般

電源

電圧 : AC 100 V ~ 240 V (自動切替式)、50/60 Hz
電源端子 : Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子

注意

日本国内においては、AC100 V のみ動作保証となります。
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

消費電流

100~120 V 時 : 3.1 A (通常 1/8 出力時) ※1
100~120 V 時 : 7.5 A (最大 1/3 出力時) ※2

消費電力

: 53 W ※3

突入電流

: 3.2 A

※ 1: 通常の使用状況で、フルパワー出力の 1/8 の場合の消費電力 (音楽再生中にクリッピングがほとんど発生しない状態) になる構成時でもこれを最小値としてください。

※ 2: 通常の使用状況で、フルパワー出力の 1/3 の場合の消費電力 (音楽再生中にクリッピングとリミッターの作動が頻繁に発生する状態) プロ設備やツアーの場合は、これらの値に従ってサイジングを決めてください。

※ 3: 電源オンで入力信号がない時

外形寸法

幅×高さ×奥行き : 1100 × 380 × 450 mm
(突起部を含まず)

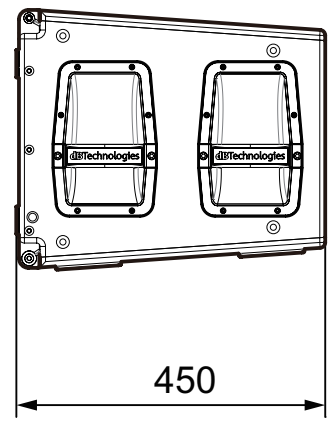
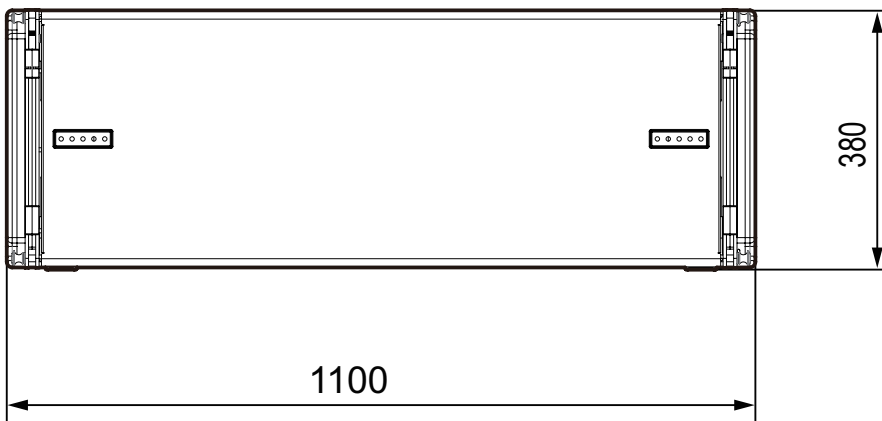
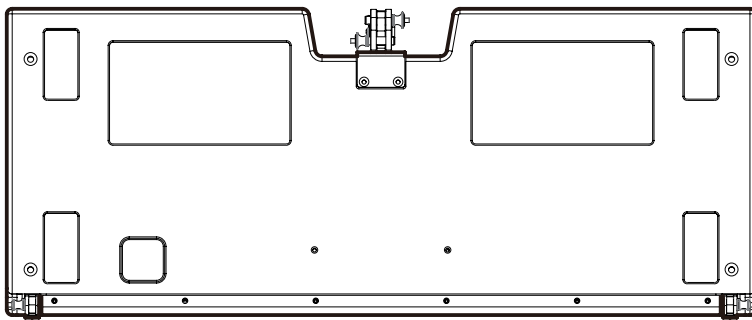
質量

: 54.4 kg

動作温度

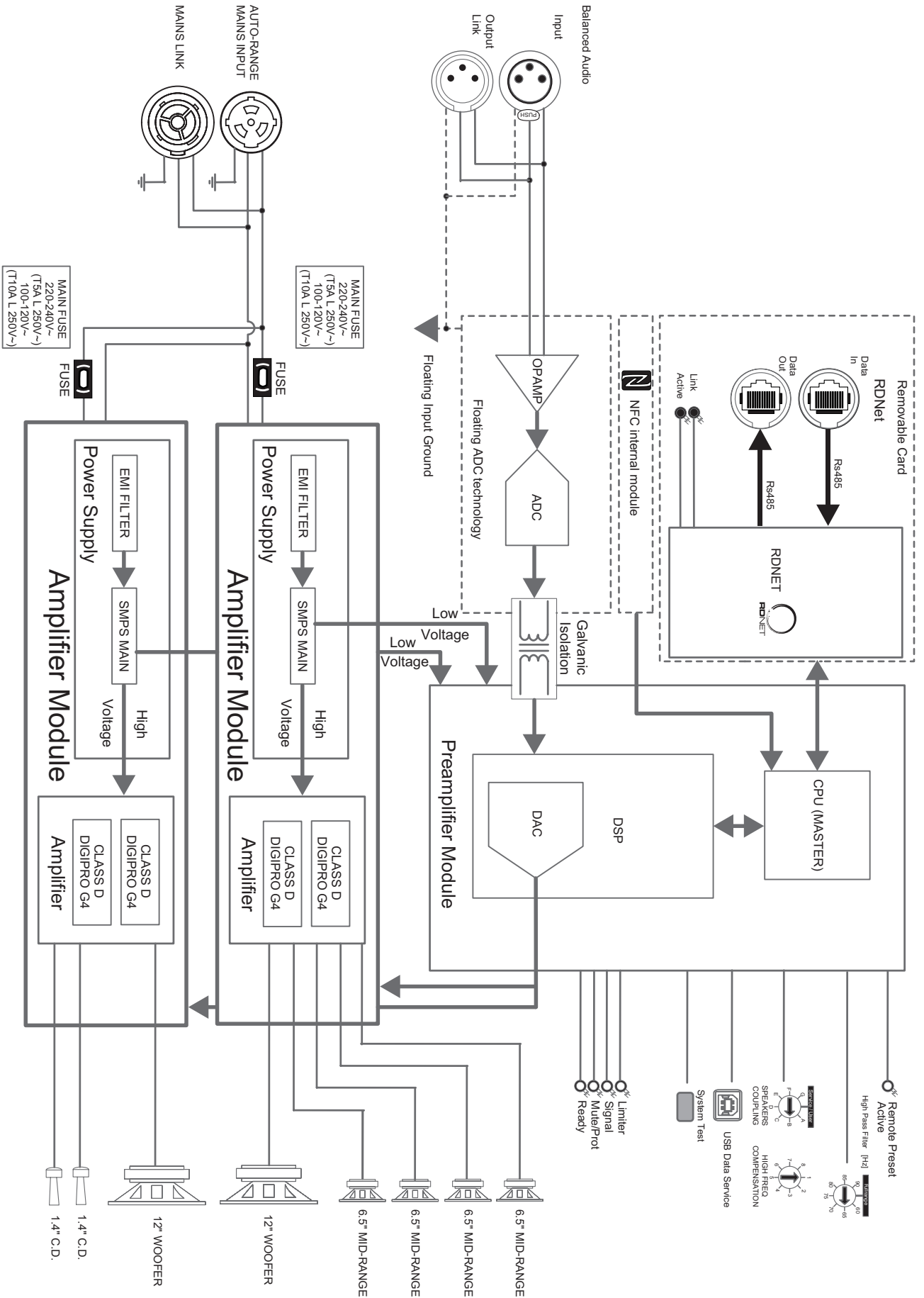
: -15 ~ +55 °C

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ブロック図





無料修理規定(持ち込み修理)

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
無償修理の対象は、お客様が日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
- ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼に出来ない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
- 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
 - ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - 接続しているほかの機器に起因する故障および損傷

(5)業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

(6)メンテナンス

(7)本書の提示がない場合

(8)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

- 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



